

聖書箇所：ルカの福音書 6章 6～11節

説教題：いのちを救うために

1 律法学者・パリサイ人の考え

前は、安息日に弟子たちが麦畑で穂を摘み、それを食べたことに対し、パリサイ人たちがクレームをつけたことを見て参りました。今日の箇所でも、安息日のことが問題となっています。律法学者、パリサイ人たちがイエスの周囲にスパイを送り込み、イエスの語ることなす事すべてを監視しています。二十四時間見張っていれば、必ずぼろを出すに違いない。もしそれが一つでも見つかったら、それをネタにイエスの人格を徹底的に攻撃し、イエスから世間の人たちが離れていくようにしよう。そうすればイエスの活動を封じ込めることができる。それが彼らの狙いでした。いったい安息日の何が問題だったのでしょうか。

聖書には安息日に関してこのような律法があります。「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。しかし、七日目には、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。」(出エジプト記 20章 8～10節前半)

神の命令ですから、人々は素直に従おうとします。ところがすぐに問題にぶつかります。「どんな仕事もしてはならないとあるけれど、具体的にはどんな事がよくてどんな事がよくないのか。」人々は素朴な疑問を律法学者たちに質問しました。聖書のどこを開いても、具体的なことは書かれていない。そこで律法学者たちは、きちんとした基準を示す必

要があると考え、それをアガターとかハラハーと呼ばれる規則体系としてまとめ上げます。それによると、次のような行為が「仕事」ということになっているそうです。実際は三十九あるのですが、その中からいくつかご紹介します。「刈り入れをすること、粉をひくこと、こねること、焼くこと、火を消すこと、火をつけること、二文字を書くこと。家を建てること。」こんな具合です。

2 イエスは安息日の規定に違反したのか (1) 医療行為は労働？

聖書に戻ります。「律法学者、パリサイ人たちは、イエスが安息日に人を直すかどうか、じっと見ていた」とあります。彼らの基準によれば、安息日に人を直すことは「労働」にあたるというのです。なぜ「労働」になってしまうのか。私たちにはにわかに理解できません。

具体的に考えましょう。例えば熱があるというとき、私たちはお店で売っている市販の風邪薬を飲むでしょう。しかし二千年前のイスラエルにはそのようなものはありません。熱を下げる薬が必要だというのなら誰かが作らなければならない。山か畑に行き、薬草を摘んできて、火にかけ、乾燥させ、粉にします。そうやって初めて病人を治療することができます。つまり人を直すためには、先ほど挙げた労働にあたる作業をしないとイケなくなる。安息日の規定に違反することになる。

では、薬さえ飲ませなければ他の治療はできたのか。例えば骨折したような場合はどう

か。もちろん命に関わるような大きなけがの場合は、治療することは許されていました。でも、もし命に関わるような骨折でなければ、安息日には骨折の治療をしてはならないと定めていました。なぜなら彼らの論理によれば、それは家を建てることとおなじ事であり、労働行為にあたるから。

なんともばかばかしくなるような話ですが、こんなことが二千年前大まじめに議論されていたということに驚きます。イエスがなぜパリサイ人律法学者たちとことごとく対立するのか。ここだけ見ても、納得いくはずです。

(2) イエスはなにをしたのか

これに対し、イエスはどのような応答をされたのか。次にそれを見ます。

8 節。「イエスは彼らの考えをよく知っておられた。それで、手のなえた人に、「立って真ん中に出なさい」と言われた。その人は、起き上がって、そこに立った。」9 節は後で見るとして、続けて 10 節。「そして、みなの方を見回してから、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、彼の手は元どおりになった。」

イエスは何をされているのか、よく注意して読んでください。イエスは何か薬を飲ませたのでしょうか。いいえ、そんなことはしていません。イエスはこの手のなえた人に触れたり、からだを動かすような作業をされましたか。いいえ、イエスご自身がからだを動かすような行動はしていません。ではいったい、イエスはどのようにして手のなえた人を直したでしょう。「立って、真ん中に出なさい。」そして「手を伸ばしなさい。」この二つのことばを語っただけです。

イエスのご自分のからだを動かしていません。ただみことばを語っただけです。二つのみことばを語ったので、その結果手のなえた人がいやされました。ということは、どういうことになるか。

パリサイ人や律法学者たちは、今日の前でイエスは安息日に禁じられている労働行為をするに違いないと期待しました。ところが、イエスは彼らが期待するような労働行為は何一つされなかった。ということは、イエスを攻撃する口実がまったく見つからなかったということです。

イエスは、あちらこちらに張り巡らされた罟をうまくくぐり抜けているように見えます。いやそれだけではなく、まんまとパリサイ人たちの裏をかき、非常に効果的に神のみわざを人々の見ている前で行ったかに見えます。イエスに向けられる賞賛の声はますます高まり、反対にパリサイ人律法学者たちの面目は地に落ちていきます。

こんな劇的な効果はありません。パリサイ人たちが分別を失い、イエスをどうしてやろうかといきり立つのは当然の成り行きです。彼らの心の中にこのとき初めて、イエスを殺さなければという思いが芽生えていきます。

3 安息日にしてよいこと

(1) いのちを救うことは善を行うことである

さて、イエスがここで示そうとされていることは何かを考えたいと思います。神の知恵がいかによろしいか。神がいかに力を持った方であるのか。そのことを示そうとされているのでしょうか。

でも、イエスが人々にこう問いかけていることを忘れてはなりません。9 節。「あなた

がたに聞きますが、安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも失うことなのか。どうですか。」

みなさんはすぐに、二つのことを並べて問いかけていることに気がつかれたはずです。そして二つのことがそれぞれ対応していることにも気がつきます。つまりこうです。「善を行うこと」と「いのちを救うこと」これが一つにセットになります。そして「悪を行うこと」と「いのちを失うこと」とがもう一つのセットとなる。

イエスにとって「いのちを救うこと」は「善を行うこと」である。まったく疑問の余地がありません。わかりきったことです。問題ありません。

(2)いのちを失うことは悪を行うことである

もしイエスのみことばがそこで終わっていたのなら、私たちはそれ以上考える必要はなかったでしょう。イエスは安息日であっても人を救うことを最優先事項としていかれた。それで納得して終わります。

ところがイエスのみことばは、そこでは終わってはいません。もう一つのセットとなることばをお語りになっています。「いのちを失うこと」は「悪をおこなうこと」である。

さて、どうでしょう。すぐに納得できますか。確かに納得できる面はあります。いのちを失うことは、よくないことに決まっている。でもイエスが語っているのはそんなレベルではありません。「いのちを失うことは悪をおこなうこと」である。似ているようだけれど、意味が全然違うのです。

三月に起きた地震と津波によって七十人

の小学生が亡くなった学校のことが先日テレビで取りあげられていました。子どもを亡くした保護者たちを集めて説明会が開かれました。その席上で、市長が「子供たちが亡くなったのは宿命だった」と発言しておりました。どんな理由からそのような発言をされたのかはわかりません。今回の津波は想定外の規模だったので、子供たちを助けるのは難しかった。だから子供たちが亡くなったことをあきらめてくれ。そういう意味だったのでしょうか。もしかして市長の発言の背後には、過ぎたことは忘れて、前に向かって歩いていくしかないという思いがあったのでしょうか。

確かに失われた幼いいのちを取り戻すことはできません。子どもを亡くした親たちがどんなに学校や教育委員会や市長の責任を追及したとしても、子供たちは帰ってきません。

津波で子供たちのいのちが失われたことは悪であると、だれもが考えます。しかし、「いのちを失うこと」は「悪を行うこと」だとまで考える人がいたのでしょうか。いたかもしれない。しかし、たとえそう考えたとしても、七十人の子供たちを救うことができたのか。だれもできません。私たちの悲しみはそこにあります。そこで絶望するしかありません。

イエスはどうなのでしょう。この方は言われます。いのちを失うことは悪を行うことである。いのちを救わず、何もしていないことはイエスにとって悪を行うことと同じであると言われます。

そうするとどうなりますか。この方には、何もしないという選択肢がないということになります。奇妙な言い方になるかもしれま

せんが、この方は、あらゆる機会を見つけていのちを救うことしかできないとお語りになっているのです。

安息日に、これをしてはいけない、これをしてよい。そんな小さな話しではありませんでした。なぜ安息日が聖となるのでしょうか。どうして安息日には私たちは休むことになるのでしょうか。私たちにはいのちを救うことは絶対にできない。けれども、イエス・キリストが私たちのいのちを救おうとされるからではないですか。私たちにできなかったことを、神がすべてしてくださるのですから、私たちは何もする必要はない。だから休むことになる。上からの命令ではありません。イエスが低くなられて、このことを実現してください。

主イエスは、もしも私たちのいのちを救わないということになれば、それは悪を行うことになるかと語っておられます。主の御名をあげます。